元気っ子　Ｎｏ310 ながさわ保育園

園　長　　中　瀬　弦　偉

5 月に入り、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の分類として 5 類に位置付けられたことから、徐々にコロナ禍以前の日常が戻ってきたように思います。保育園の方でも、これまでオンラインが中心になっていました研修等が対面を基本として開催されはじめ、先日、私と主任で滋賀県草津市にあります「ののみち認定こども園さん」の施設見学研修会に参加してきました。

この「ののみち認定こども園さん」も寺院（浄土宗）と併設されたこども園であり、また、保育環境研究所ギビングツリーの認定施設であることが、ながさわ保育園と共通しています。（ながさわ保育園も令和 3 年より保育環境研究所ギビングツリー認定施設になっています）また、保育方法（異年齢児集団保育、セミバイキング、選択制保育等）も共通する部分が多く見られつつも、ののみち認定こども園さんならではの工夫も随所に見られ、学びの多い研修会になりました。また研修報告会を通して現場に学んできたことを落とし込み、保育の質の向上に努めていこうと思います。

思い返せば、現理事長（私の父）が園長を務めていた頃も、全国に志を同じくした仲間がたくさんいました。そんな仲間たちと熱く保育を語り合い、苦楽を共にし、互いに保育の質を高め合っていたのだと思います。私は、保育の方向性を見失わないためにも、この「外交」は施設長の大きな役目の一つだと思っています。なぜなら、この「外交」がないと、自分たちの保育を省みることができなくなるからです。日本をはじめ、世界が向かおうとしている教育・保育・人材育成の方向性を確認したり、なかなか思うようにいかない悩みを共有しながら支え合ったりすることは、同じ志をともにする仲間がいてこそ成り立っていくのだと思います。

施設の基本方針を決定する立場にある施設長が、この「外交」を怠ることは、比較対象や確認をし合う仲間を持てなくなるので、自分達の保育の現在地を確認しづらくなりますし、時代や社会の変化に対して瞬時に対応できなくなるので、閉鎖的でいることのリスクはとても大きいと言わざるを得ないと思います。

昨今、不適切保育についての報道が後を絶ちません。私はこの保育の仲間との絆があれば、不適切保育も未然に防げたのではないかと思います。虐待は急に起こるものではなく、徐々にエスカレートしてそうなるものです。早い段階で園の悩みを打ち明け、その悩みに寄り添いながら支え合える仲間の同僚性があれば防げたのではないかと、悔しい気持ちになります。

不適切保育の問題は決して対岸の火事ではないと思います。これは全ての大人が見つめ続けなければならない問題だと思います。なぜなら誰の心にも虐待に繋がる「弱さ」が潜んでいるからです。ぐずぐずする子どもを過度に叱責してしまったり、子どもなりの必死の訴えを一笑に付してしまったり。虐待の芽は常に自らを省みることでしか摘み取ることはできないと思います。小さな声を軽視してしまいそうになる「弱さ」との静かな戦いの繰り返しなのだと思います。だからこそ、孤独に戦うのではなく、仲間と共に戦い続けないといけないのだと思います。一人でも多くの子どもの笑顔を守るために課せられた大人の責務として。6 月もどうぞよろしくお願い致します。